

## 名称 ソウジュヨウ

他名等 ハマウツボ

部位等 茎 備考

学名(科名) *Orobanche coerulescens* (赤松 和漢薬, 医歯薬出版) 和漢薬百科(難波)によれば、*Boschniakia rossica* B. Fedtsch. et Fleron = *B. glabra* C.A.Meyer (Orobanchaceae) となっているが、これは、食薬区分ではニクジュヨウの定義である。

生薬名、基原植物和名等 ハマウツボ、キムラタケ 生薬名 草従蓉 難波ではハマウツボ(ハマウツボ科)の生薬名は列当

医薬品としての使用実態があるか No 難波和漢薬には載っている。

毒性データー (LD50 等) なし

アルカロイド、毒性タンパク、毒薬劇薬指定成分等を含むか Yes

Monoterpenoid pyridine alkaloids (artifactでは?) : boschniakine, *Phytochemistry* (1972), 11(10), 3082-3, *Tetrahedron* (1967), 23(12), 4635-52

麻薬、向精神薬及び覚醒剤様作用があるもの(類似化合物も含む)及びその原料植物であるか No

主要な二次代謝産物等

iridoid, (4R)-4-hydroxymethylboschnialactone: *CPB* (2004), 52(2), 289-290

iridoid, boschnalosite 他 *Archives of Pharmacal Research* (1999), 22(1), 78-80

iridoid, boschnalosite and boschnaside, *CPB* (1987), 35(10), (1981), 29(10), 2807-15 4155-61, *Shoyakugaku Zasshi* (1987), 41(1), 80-3, *CPB* 庄司先生

8-Epi-iridodial glucoside, *Planta Medica* (1982), 46(1), 45-7 田川素子

C9-, C10-, and C11-terpene lactones, *Nippon Kagaku Zasshi* (1969), 90(6), 507-28

*Orobanche phenylethanoid*

主要な生理活性

強壯・補精薬、止血薬

*Boschniakia ross* で、マウスに対し、唾液分泌促進、呼吸麻痺作用

Functional roles of iridoid and ionone type glycosides in the attractive and ecstasizing plants for felids, *FFI Journal* (1997), 173, 61-72 日本語

その他注意すべき点

*C. deserticola*, *C. salsa* は専ら医、管花肉従蓉 *Cistanche tubulosa* は、非医；植物名の定義が難しい。

ニクジュヨウとの関係で、専ら医と判断されたと考えられる。列当は *O. ammophila*

最近中国で *in vitro* の活性が検討されている(中国語の論文)

Botanical Safety Handbook なし、

評価：E

含まれるとされるアルカロイドは、アーティファクトと考えられ、それ以外の成分も、特に危険なものは報告されていない。(オニクも同様と考えられる)

## 名称 ソウハクヒ

他名等 クワ、マグワ 英名 Mulberry Bark

部位等 根皮 備考 葉、花、実（集合果）は非医

学名（科名）*Morus alba* L. (Moraceae) クワ科（マグワ、局方）、クワ：*M. bombycis* Koidz. (牧野)

生薬名、基原植物和名等 マグワ 生薬名 桑白皮

医薬品としての使用実態があるか Yes 局方

毒性データ（LD50等）i.v. mouse LD50 327 mg/kg 日本薬理学会誌 56, 704, (1960)

アルカロイド、毒性タンパク、毒薬劇薬指定成分等を含むか Yes

pyrrolidine alkaloid: *BBRC* (2003), 304(1), 78-85

nortropane alkaloids, *CPB* (2002), 50(2), 185-192 (桑実)

polyhydroxylated alkaloids: (2R,3R,4R)-2-hydroxymethyl-3,4-dihydropyrrolidine-*N*-propionamide, *Journal of Agricultural and Food Chemistry* (2001), 49(9), 4208-4213

polyhydroxylated piperidine alkaloids, polyhydroxy-nor-tropane alkaloids: *Carbohydrate Research* (1994), 259(2), 243-55

麻薬、向精神薬及び覚醒剤様作用があるもの（類似化合物も含む）及びその原料植物であるか No

主要な二次代謝産物等

1-deoxynojirimycin (専医リストにある) : (Analysis) *Journal of Agricultural and Food Chemistry* (2004), 52(6), 1415-141, (Antihyperglycemic effects) *Wakan Iyakugaku Zasshi* (1995), 12(3), 214-19, ( $\alpha$ -glucosidase II inhibitor) *Shoyakugaku Zasshi* (1993), 47(1), 47-55.

umbeliferone, scopoletin 等クマリン類、フラボノイド

主要な生理活性

DNA polymerase 阻害作用 The inhibitory action of pyrrolidine alkaloid, 1,4-dideoxy-1,4-imino-d-ribitol, on eukaryotic DNA polymerases, *Biochemical and Biophysical Research Communications* (2003), 304(1), 78-85

消炎性利尿、解熱、鎮咳

重要文献

その他注意すべき点

Botanical Safety Handbook class 1 (root bark, twig, fruit, leaf)

指定医薬品または要指示医薬品に相当する成分を含むか（情報がある場合のみ）

評価：B

局方生薬であり各種アルカロイドを含む。

## 名称 ソウボク

他名等 シナタラノキ

部位等 根、根皮、材 備考

学名(科名) 赤松和漢薬ではソウボクは、シナタラノキ *Aralia chinensis* L. 及び *A. elata* Seemann の樹皮と定義している。(Araliaceae) ウコギ科 他方、難波和漢薬の定義では、そうぼく(タラノキ)は *A. elata* の樹皮、材および根皮を乾燥したものと定義している。*A. elata* は局外生規でタラノキと定義  
生薬名、基原植物和名等 そうぼく、たらの木

医薬品としての使用実態があるか *A. elata*とすれば Yes 局外生規(タラコンピ タラ根皮)

CPでは *A. armata* (虎刺そう木)、*A. decaisneana* (黄毛そう木)

毒性データ(LD50等) RTECS oral mouse LD50 1171mg/kg; i.p, mouse 59 mg/kg

アルカロイド、毒性タンパク、毒薬劇薬指定成分等を含むか No

麻薬、向精神薬及び覚醒剤様作用があるもの(類似化合物も含む)及びその原料植物であるか No

主要な二次代謝産物等

サポニン類 araloside A (Chikusetsusaponin IV)

主要な生理活性

民間薬的に糖尿病治療薬

重要文献

その他注意すべき点

牧野では *Aralia elata* はソウボクでないといっている。

タラコンピ(タラノキ)が別に定義されている。従ってここでいっているのは *A. chinense* のみか。

Botanical Safety Handbook なし *A. racemosa* は class 2b

指定医薬品または要指示医薬品に相当する成分を含むか(情報がある場合のみ)

評価: E

LD50 値が経口で大きく、安全性が高いと考えられる。

## 名称 ソクダン

他名等 センゾクダン

部位等 根 備考

学名(科名) 続断をマツムシソウ科ナベナ属 (*Dipsacus* sp.) の根と赤松和漢薬には定義；ナベナ *Dipsacus japonica* Miq., トウナベナ *Dipsacus asperoides* C.Y. Cheng et T.M. Ai (以上赤松和漢薬) (トウナベナはかつて *D. asper* Wall とされていたが、これはインド産と難波和漢薬に記述) (Dipsacaceae) マツムシソウ科  
生薬名、基原植物和名等 ナベナ、センゾクダン 生薬名 続断 (*Dipsacus japonica* Miq.)、川続断 (*Dipsacus asper* Wall.) 難波和漢薬

医薬品としての使用実態があるか No ただし和漢薬として使用。

毒性データ (LD50 等)

RTECS *D. strictus* LD50 i.p rat, >1g/kg; *D. inermis* i.p. mouse, 681 mg/kg

アルカロイド、毒性タンパク、毒薬劇薬指定成分等を含むか Yes

Alkaloids of *Dipsacus aspero*, *Zhongguo Yaoke Daxue Xuebao* (1993), 24(5), 281-2, The root of *Dipsacus asperoides* contained venoterpine and cantleyine (含窒素イリドイド、アーティファクトの可能性が高い) 中国語の論文で、この2化合物の構造不明

麻薬、向精神薬及び覚醒剤様作用があるもの(類似化合物も含む)及びその原料植物であるか No

主要な二次代謝産物等

hederagenin (3,28-glycosides triterpenoid saponin), *Huaxue Xuebao* (1999), 57(11), 1262-1269; トリテルペノイドサポニン類, *Huaxue Xuebao* (1999), 57(7), 801-807, *Yaoxue Xuebao* (1994), 29(7), 511-18, *Zhongguo Yaoke Daxue Xuebao* (1993), 24(5), 272-5

iridoid glucoside, loganic acid-6'-O-β-D-glucoside, *Phytochemistry* (1996), 42(1), 239-40. 神戸薬大

主要な生理活性

A crude polysaccharide fraction (DAP-1) showed not only anti-complementary activity but also a stimulating effect on the mitogenic activity of lymphocytes. DAP-1 also suppressed the phagocytic activity of macrophages.

*Planta Medica* (1997), 63(5), 393-399 北里 Haruki, Yamada *et al.*

強壯、鎮痛、消炎

その他注意すべき点

和続断は、キク科 *Cirsium* 属の植物の地下部；*C. dipsacolepis* (ヤマゴボウ) は、非医；タイケイは、*C. Japonicum* (ノアザミ) に非常に近縁な種の根 種の混乱が見られるので注意が必要

Botanical Safety Handbook *D. asper* で class 1 (teasel, Szechuan teasel, Japanese teasel)teasel：マツムシソウ科ナベナ属

範囲は、続断 (*Dipsacus japonica* Miq.)、川続断 (*Dipsacus asper* Wall.) と規定すると混乱がない

評価：E

近縁種が Botanical Safety Handbook で class 1 であり、アルカロイドもアーティファクトと考えられ、また毒性の有る化合物も報告されていない。

## 名称 ソテツ

### 他名等

部位等 種子 備考

学名(科名) *Cycas revoluta* Thunb (Cycaceae) ソテツ科 (牧野)

生薬名、基原植物和名等 ソテツ (雌雄異株)

医薬品としての使用実態があるか No

毒性データ (LD50 等)

RTECS Cycasin MeNONCH<sub>2</sub>-O-Glc

LD50 oral rat 270 mg/kg, oral rabbit 30mg/kg, oral guinea pig 20 mg/kg

変異原性 DNA damage , rat oral 56 mg/kg, mouse oral 50 mg/kg 他多数あり

発がん性 oral rat TDL0 100 mg/kg 他多数

アルカロイド、毒性タンパク、毒薬劇薬指定成分等を含むか Yes

cycasin (プソイド青酸配糖体)、neocycasin A, B, E

麻薬、向精神薬及び覚醒剤様作用があるもの(類似化合物も含む)及びその原料植物であるか No

主要な二次代謝産物等

cycasin、neocycasin A, B, E

主要な生理活性

Cycasin 発ガン性 (肝臓ガン)

Cycasinの酵素分解で有毒なホルムアルデヒド (Formaldehyde sol. LD<sub>50</sub> 0.80g/kg po rat) を生ずる。そのまま食べると下痢をする。

重要文献

食品衛生学(南江堂)第二版

その他注意すべき点

Cycasin は、経口で腸内細菌によって加水分解され、アグリコンがニトロソ化合物となり methylcarbonium cation を与えて DNA をメチル化する。

奄美では味噌をつくる。ソテツ味噌は、明らかに食品であるので、専ら医としない。同様に、沖縄の久米島では、十一月にソテツの実を収穫し、二ヶ月かけて丁寧に晒して毒を抜き、郷土料理を作っているが、これも明らかに食品と考えられる。

Botanical Safety Handbook なし

指定医薬品または要指示医薬品に相当する成分を含むか (情報がある場合のみ)

評価 : A

有毒な青酸配糖体 Cycasin を含む。

## 名称 ソボク

他名等 スオウ 英名 Sappan wood

部位等 心材 備考

学名(科名) *Caesalpinia sappan* L. (Leguminosae) マメ科

生薬名、基原植物和名等 スホウ、スオウノキ 生薬名 蘇木、蘇方木

医薬品としての使用実態があるか Yes 局方 210処方中5処方で使用

毒性データ (LD50 等) LD50 i.p. mouse 750 mg/kg, brazilin LD50 i.p. mouse 1.5g/kg

アルカロイド、毒性タンパク、毒薬劇薬指定成分等を含むか No

麻薬、向精神薬及び覚醒剤様作用があるもの(類似化合物も含む)及びその原料植物であるか No

主要な二次代謝産物等

黄色色素brazilin (2%) ホモイソフラバン, 空気酸化され紅色のbrasileinとなる。染料

Brazilide A, a novel lactone with an unprecedented skeleton from *Caesalpinia sappan*: *Tetrahedron Letters* (2002), 43(9), 1731-1733, homoisoflavonoids, *Fitoterapia* (2003), 74(6), 600-602

主要な生理活性

Brazilian modulates the immune functions in normal CBA female mice, *Korean Journal of Toxicology* (1992), 8(1), 1-7 ; Brazilin modulates immune function mainly by augmenting T cell activity in halothane administered mice, *Planta Medica* (1997), 63(5), 405-408 ; Anticomplementary activity of constituents from the heartwood of *Caesalpinia sappan*, *Planta Medica* (1998), 64(5), 456-458 ; Vasorelaxing effects of *Caesalpinia sappan*. Involvement of endogenous nitric oxide, *Life Sciences* (2000), 67(15), 1913-1918; DNA strand-scission activity.(anticancer agents): A DNA strand-nicking principle of a higher plant, *Caesalpinia sappan*, *Archives of Pharmacal Research* (2003), 26(2), 147-150

駆お欠、抗炎症、通経、鎮痛薬

重要文献

その他注意すべき点

Botanical Safety Handbook なし

指定医薬品または要指示医薬品に相当する成分を含むか (情報がある場合のみ)

評価 : B

局方収載生薬であり、210 処方にも使用している。

## 名称 ソリシ

他名等 クロウメモドキ

部位等 果実 備考

学名(科名) 赤松和漢薬ではクロウメモドキ科クロウメモドキ属 *Rhamnus* sp. の果実と定義  
(Rhamnaceae) クロウメモドキ科

生薬名、基原植物和名等 エゾクロウメモドキ *Rhamnus japonica* Maxim. クロウメモドキは *Rhamnus japonica* var. *decipiens* Maxim (黒梅擬) 生薬名 鼠李子

医薬品としての使用実態があるか No 難波和漢薬になし

毒性データ (LD50 等) *R. virigatus* Roxb. root i.p. LD50 375 mg/kg

アルカロイド、毒性タンパク、毒薬劇薬指定成分等を含むか Yes

emodin i.p. mouse LD50 35mg/kg *J. Agric Food Chem.*, 27, 1342 (1979).

麻薬、向精神薬及び覚醒剤様作用があるもの(類似化合物も含む)及びその原料植物であるか No

主要な二次代謝産物等

anthocyanins, *Botanical Magazine, Tokyo* (1975), 88 (1009), 41-5

anthraquinones, glycosidal anthrols: Determination of anthra compounds in fruits of twenty-one species of the genus *Rhamnus*, *Acta Polon. Pharm.* (1964), 21 (2), 131-4 (ポーランド語) 中薬大辞典にも、エモジン、クリソフェノール、アントラノールを含むとある。

anthranols: *Planta Medica* (1959), 7, 344-66

anthraquinone-glycoside: *Bull. Pharm. Research Inst. Japan* (1951), (No. 2), 23-9

種子には、ラムノジアスターゼを含む

主要な生理活性

重要文献

*J. Agric Food Chem.*, 27, 1342 (1979)

その他注意すべき点

タイソウ、ナツメ、サネブトナツメ等のクロウメモドキ科の果実との混乱が健康食品業界にみられる。和名のクロウメモドキは、*R. japonica* Maxim. var. *decipiens* Maxim. 中薬の、ソリ(鼠李)は、リュウキユウクロウメモドキ *R. davurica* Pall. で同属だが、種がちがう。中薬大辞典では、ソリをクロウメモドキ科の植物とも定義しているが、この場合、定義が広くなりすぎる。クロウメモドキ属の植物と考えるべき。*R. fangula*, *R. purshiana*, *R. catharticus* は Com E にあり。*R. japonica* で CA 文献検索すると、ほとんどが 1970 年以前の論文である。

Botanical Safety Handbook なし *R. frangula* 等が 2b なのでそれに近い

指定医薬品または要指示医薬品に相当する成分を含むか (情報がある場合のみ)

評価: A

劇薬である emodin 及びその類縁体を含む。他名等もクロウメモドキ属とすべき。

## 名称 ダイオウ

他名等 ヤクヨウダイオウ 英名 Chinese rhubarb

部位等 根茎 備考 葉は非医

学名(科名) *Rheum palmatum* L., *R. tanguticum* Maxi., *R. officinale* Baillon, *R. coreanum* Nakai 又はそれらの種間雑種 (Polygonaceae) タデ科 (局方)

馬蹄大黃、芋大黃など多種。*R. raponticum* は良質ではない。地方独特の大黃がある。(難波他)

生薬名、基原植物和名等 生薬名 大黃

医薬品としての使用実態があるか Yes 局方

毒性データ (LD50 等)

TDL0 oral rat 50 mg/kg (*R. palmatum*), physcion (emodin 3-methyl ether), i.p. mouse LD50 10mg/kg, emodin i.p. mouse LD50 35mg/kg *J. Agric Food Chem.*, 27, 1342 (1979).

アルカロイド、毒性タンパク、毒薬劇薬指定成分等を含むか Yes

physcion, emodin

麻薬、向精神薬及び覚醒剤様作用があるもの(類似化合物も含む)及びその原料植物であるか No

主要な二次代謝産物等

アントラキノン誘導体 chrysophanol, emodin, rhein, aloe-emodin, physcion その 8-monoglucoside sennoside A-F, anthrone 配糖体

スチルベン類 rhaponticin, piceid (良質なものは raponticin を含まない)

タンニン類 rhatannin I, II 他

主要な生理活性

大腸性瀉下、消炎性健胃、薬効が峻烈、快速

重要文献

*J. Agric Food Chem.*, 27, 1342 (1979)

その他注意すべき点

Botanical Safety Handbook class 2b (not to be used during pregnancy), 2c (not to be used while nursing), 2d (Other specific use restrictions as noted) Contraindicated in intestinal obstruction, abdominal pain of unknown origin, or any inflammatory condition of the intestines; and in children less than 12 years of age; not for long-term use in excess of 8-10 days; individuals with a history of kidney stones should use this herb cautiously.

指定医薬品または要指示医薬品に相当する成分を含むか (情報がある場合のみ)

評価 : A

劇薬である emodin 及びその類縁体を含む。



## 名称 ダイケイ

他名等 ノアザミ

部位等 根 備考

学名(科名) 赤松和漢薬では大薊をオニアザミ *Cirsium nipponense*, Koidumi またはヤマアザミ *C. spicatum*, Matsum. としている。難波和漢薬ではキク科 (Compositae) のノアザミ (*Cirsium japonicum* DC.) に非常に近縁な種の根 と定義 *Cirsium* はアザミ属

生薬名、基原植物和名等 生薬名 大薊

医薬品としての使用実態があるか No 日本ではアザミ根、和統断の名で民間薬として使われているが承認はない

毒性データ (LD50 等) ECS *C. falconeri* LD50 i.p. mouse 681 mg/kg, *C. arvense* i.p. mouse 500 mg/kg

アルカロイド、毒性タンパク、毒薬劇薬指定成分等を含むか No

麻薬、向精神薬及び覚醒剤様作用があるもの (類似化合物も含む) 及びその原料植物であるか No

主要な二次代謝産物等

flavones (luteolin 等) *Journal of Food Science and Nutrition* (2003), 8(4), 330-335, *Phytochemistry* (1995), 39(1), 261-2, *CPB* (1978), 26(7), 2036-9;

palmitic acid(14.42%), caryophyllene oxide (12.57%), khusinol (6.31%), pentadecanoic acid (6.28%) and myristic acid (4.66%) as the major components of essential oil. Terpenoids accounted for about 45.22%, esp. sesquiterpenoids, which comprised 42.17% of the essential oil. *Flavour and Fragrance J.* (2003), 18(1), 15-17

Phenolics (linarin, syringin, sinapylaldehyde, 4-O-β-D-glucopyranoside, ferulylaldehyde, 4-O-β-D-glucopyranoside, chlorogenic acid (5-O-caffeoylquinic acid), 1,5-di-O-caffeoylquinic acid, tachioside and uridine, 5,7,4'-trihydroxy-6-methoxyflavone 7-O-α-L-rhamnopyranosyl-(1.fwdarw.2)-β-D-glucopyranoside *Natural Medicines* (Tokyo, Japan) (1995), 49(1), 92-4;

triolacetylene H<sub>2</sub>C:CH(CH<sub>2</sub>)<sub>5</sub>CH(OR<sub>1</sub>)CH(OR<sub>2</sub>)CH(OR<sub>3</sub>) *C.tplbond.C*, *C.tplbond.CPr* (I, R<sub>1</sub>-R<sub>3</sub> = H)

*Phytochemistry* (1991), 30(7), 2321-4, *Phytochemistry* (1990), 29(12), 3849-52 徳島大薬

acetylenic alcohol, *Phytochemistry* (Elsevier) (1980), 19(8), 1864-6

主要な生理活性

血圧降下作用 (難波和漢薬)

antihemorrhagic substances, *CPB*(1987), 35(2), 861-4; pectolinarin [28978-02-1]. 静薬大 小菅

specific odors で、*Ostrinia zealis* に産卵刺激作用

抗線虫活性 *Agricultural and Biological Chemistry* (1980), 44(8), 1983-4, (1980), 44(4), 903-6

高血圧、肝炎、咯血、鼻血、崩漏 (婦人科不正出血)、血尿など熱症による出血に有効。

涼血止血作用があり血熱 (中医診断における) による出血に適用される。yinyou.com/chuiyaku3.htm

その他注意すべき点

和統断は、キク科 *Cirsium* 属の植物の地下部; *C. dipsacolepis* (ヤマゴボウ) は、非医

ダイケイではなく、タイケイとすべき

ネットではマリアアザミ (オオアザミ属、*Syllybum marianum*) との混乱がある

Botanical Safety Handbook なし

範囲は、*Cirsium nipponense*, Koidumi、*C. spicatum*, Matsum.、*Cirsium japonicum* DC.及びその近縁種  
指定医薬品または要指示医薬品に相当する成分を含むか（情報がある場合のみ）

**評価：E**

アルカロイドや向精神作用物質、毒薬劇薬指定成分等を含むという報告がなく、また日本では、医薬品としての使用実態もほとんどない。なお、名称はダイケイではなく、タイケイとすべき。

## 名称 ダイフクヒ

他名等 ビンロウ 英名 Betelnut

部位等 果皮 成熟果実の果皮の乾燥したもの 備考 種子は非医

学名(科名) *Areca catechu* L. 又はその他近縁植物 (ダイフクビンロウ *A. dicksonii* Roxburgh) (Palmae) ヤシ(シュロ)科(局外生規)

生薬名、基原植物和名等 ビンロウ、擯榔樹(ビンロウジュ) 生薬名 大腹皮

医薬品としての使用実態があるか Yes 局外生規 210処方中4処方使用

毒性データ(LD50等) nutのデータ i.p mouse LD50 681 mg/kg はあるが、果皮はない。

アルカロイド、毒性タンパク、毒薬劇薬指定成分等を含むか Yes

Localization of alkaloids in the fruit and seed of *Areca catechu*: The alkaloids are found in both the external and internal parts of the pericarp of the nut. *Compt. Rend.* (1962), 255, 363-5

arecoline (up to 0.2%) Dewick 医薬品天然物化学

麻薬、向精神薬及び覚醒剤様作用があるもの(類似化合物も含む)及びその原料植物であるか No  
主要な二次代謝産物等

fruits lection, *International Journal of Biochemistry* (1979), 10(4), 321-7

polysaccharide: anti-complementary polysaccharide from arecae pericarpium (the pericarp of *Areca catechu*)  
*Han'guk Nonghwa Hakhoechi* (1992), 35(4), 308-14, *Han'guk Nonghwa Hakhoechi* (1992), 35(6), 462-9

### 主要な生理活性

抗補体活性、利尿、健胃、整腸薬

擯榔子は条虫駆除、アレコリン(arecoline)は縮瞳薬。大腹皮は、夏風邪の吐き下しなどによく用いられる「カッ香正気散」に配合。

### 重要文献

Contents of Phenolics and Alkaloids in *Areca catechu* Linn. during Maturation

The phenolics in *A. catechu* Linn. were mainly distributed in root followed by fresh unripe fruit, leaf, spike, and vein, while the contents of alkaloids in *A. catechu* Linn. were in the order of root, fresh unripe fruit, spike, leaf, and vein. *Journal of Agricultural and Food Chemistry* (1997), 45(4), 1185-1188

果皮の成分に関する論文は少ない 種と pericarp で CA のヒット3件

Localization of alkaloids in the fruit and seed of *Areca catechu*: Alkaloids are localized in ruminates. The alkaloids are found in both the external and internal parts of the pericarp of the nut, *Compt. Rend.* (1962), 255, 363-5

### その他注意すべき点

Botanical Safety Handbook なし

### 評価:A

アセチルコリンレセプターのアゴニストである arecoline が入っている、また局外生規に収載され、210処方でも使用される重要な生薬である。

## 名称 タクシャ

他名等 サジオモダカ

部位等 塊茎 備考

学名(科名) *Alisma orientale* Juzepczuk (Alismataceae) オモダカ科 (局方)

生薬名、基原植物和名等 サジオモダカ 生薬名 沢瀉

医薬品としての使用実態があるか Yes 局方 210処方中20処方で使用

毒性データ (LD50 等) *Alisma plantago* L. i.p. rat LD50 >1g/kg

アルカロイド、毒性タンパク、毒薬劇薬指定成分等を含むか No

麻薬、向精神薬及び覚醒剤様作用があるもの(類似化合物も含む)及びその原料植物であるか No

主要な二次代謝産物等

四環性トリテルペン alisol A,B,C furfural, セスキテルペン

主要な生理活性

利尿、止瀉薬

重要文献

その他注意すべき点

210 処方中で 20 処方に利用される重要生薬

Botanical Safety Handbook class 2d Prolonged use may cause gastrointestinal irritation.

Renal and hepatotoxicity are associated with doses 20 to 40 times effective clinical dose, administered to rats for 90 days.

指定医薬品または要指示医薬品に相当する成分を含むか (情報がある場合のみ)

評価：B

局方に収載され、210 処方中で 20 処方に使用されている重要生薬である。

## 名称 ダミアナ

### 他名等

部位等 葉 備考

学名（科名） *Turnera diffusa* Willd. (Turneraceae) ツルネラ科 [ブラジル薬用植物事典 p 1163]

生薬名、基原植物和名等

医薬品として使用実態があるか No （ただし熱帯アメリカでは民間薬としての使用実態はある）

南米では強壯、催淫、胃弱、胃潰瘍、利尿、夜尿症、腰気、夢精、糖尿病、梅毒、気管支炎、下痢止め、リウマチなどに用いる。茶剤または煎剤として5%を用い、1日量は50~200ml、粉剤は2~10g、チンキは10~50ml、シロップは20~100mlを用いる。市販としてはエキスとチンキがある。

毒性データ（LD50等）

同属植物 *T. ulmifolia* Linn. var. *angustifolia* Wild.のエキス：LD50 464 mg/kg (mouse, ip)

アルカロイド、毒性タンパク、毒薬劇薬指定成分等を含むか No

麻薬、向精神薬及び覚醒剤様作用があるもの（類似化合物も含む）及びその原料植物であるか No

主要な二次代謝産物等

8-C-(rhamnosylquinovosil)luteolin [Piacente, S. *et al.*, *Z. Naturforsch.*, C, 57, 983-985 (2002)], tetraphyllin B (glucoside of cyclopentene-1-carbonitrile derivative) [Spencer, K. C. *et al.* *Planta Med.*, 43, 175-178 (1981)], triacontane, hexacosanol, 5-hydroxy-7,3',4'-trimethoxy-flavone [Dominguez, X. A. *et al.* *Planta Med.*, 30, 68-71 (1976)], 1,8-cineol, opoplenone, cadalene, epi-cubenol [essential oils: Bicchi, C. *et al.* *Flavour and Fragrance J.*, 18, 59-61 (2003)]

主要な生理活性

重要文献

その他注意すべき点

Botanical Safety Handbook class 1 (Herbs that can be safely consumed when used appropriately) P. 117

The Complete German Commission E Monographs 無記載

指定医薬品または要指示医薬品に相当する成分を含むか（情報がある場合のみ）

評価：C

我が国において使用実績はなく、ネット上では幻覚性を有するとの報告もあり、さらに調査が必要と考えられる。

## 名称 タユヤ

### 他名等

部位等 根 備考

学名 (科名) *Cayaponia tayuya* (Vell.) Cogn. (Cucurbitaceae)ウリ科 [ブラジル薬用植物事典 p 378]

生薬名、基原植物和名等

医薬品として使用実態があるか No (ただしアマゾン地域では民間薬としての使用実態はある)

ブラジルにおいて下剤、峻下剤、梅毒、水腫病、健胃、リウマチ、てんかん、皮膚病に浸剤、煎剤または膏薬として用いる。薬局でも市販されている。

毒性データ (LD50 等) なし

アルカロイド、毒性タンパク、毒薬劇薬指定成分等を含むか No

麻薬、向精神薬及び覚醒剤様作用があるもの (類似化合物も含む) 及びその原料植物であるか No

主要な二次代謝産物等

cayaponosides A1, A3, A4, A5, A6, B3, B4, B5, B6a, B6b, C2, C3, C4, C5a, C5b, D1, D3a, D3b (cucurbitacin derivatives) [Himeno, E. *et al.*, *Chem. Pharm. Bull.*, 42, 2370-2372 (1994)]

主要な生理活性

重要文献

1) 橋本梧郎: ブラジル薬用植物事典 378

その他注意すべき点

Botanical Safety Handbook 無記載

The Complete German Commission E Monographs 無記載

指定医薬品または要指示医薬品に相当する成分を含むか (情報がある場合のみ)

評価: A

我が国において使用実績はなく、アルカロイド等は含有していないが、ブラジルでは峻下剤として使用されていることから安全性に十分な配慮が必要であるため専ら医薬品と考えられる。

## 名称 タラコンピ

他名等 タラノキ

部位等 根皮、樹皮 備考 葉・芽は「非医」

学名(科名) *Aralia elata* Seemann (Araliaceae) ウコギ科 [局外生規]

生薬名、基原植物和名等 タラノキ [局外生規] 生薬名：タラ根皮 [局外生規]

医薬品として使用実態があるか Yes 局外生規収載

日本では民間で健胃、利尿、抗糖尿薬として糖尿病、腎臓病、胃腸病、胃潰瘍に用いられる。糖尿病、腎臓病、胃腸病にはタラノキ 1 日量 5~10g に 400mL の水を加え、半量になるまで煎じつめて 3 回に分けて服用する。

毒性データ (LD50 等) total aralosides: LD50 1,171 mg/kg (mouse oral); LD50 58.7 mg/kg (mouse ip)

アルカロイド、毒性タンパク、毒薬劇薬指定成分等を含むか No

麻薬、向精神薬及び覚醒剤様作用があるもの(類似化合物も含む)及びその原料植物であるか No

主要な二次代謝産物等

$\beta$ -taralin [和漢薬百科図鑑 [1] p 178], araloside A, araliasaponin V, VI, VII, VIII, IX [Song, S.-J., *et al.*, *Phytochemistry*, 56, 491 (2001)], protocatechuic acid, oleanolic acid,  $\beta$ -sitosterol, stigmasterol, aralia cerebroside [Kang, S. S. *et al.*, *J. Nat. Prod.*, 62, 1059-1060 (1999)]

主要な生理活性

ソウボクヒの水性エキスにはアドレナリン過血糖、アロキサン過血糖に対して制糖作用がある。煎剤のアドレナリン拮抗作用はコリンによるもので、 $\beta$ -タラリンには制糖作用はなく、プロトカテキユ酸は正常ウサギに投与すると逆に血糖値が上昇する [和漢薬百科図鑑]

重要文献

その他注意すべき点

とげの部分 5~10g を 500mL の水で煎じて服用すると高血圧症によいとされるが、胃腸障害などの副作用に注意を要する。

Botanical Safety Handbook class 2b (Not to be used during pregnancy) (*A. californica*, *A. nudicaulis*, *A. racemosa*)

指定医薬品または要指示医薬品に相当する成分を含むか (情報がある場合のみ)

評価：E

含有成分から食薬区分の見直し対象に成り得ると考えられる。

## 名称 タンジン

### 他名等

部位等 根 備考 葉は「非医」

学名 (科名) *Salvia miltiorrhiza* Bunge (Lamiaceae) シソ科 [中薬大辞典 p 3532, 新訂和漢薬 p 109]

生薬名、基原植物和名等 タンジン [新訂牧野和漢薬草大図鑑 p 458, 中薬大辞典, 新訂和漢薬]

生薬名：丹参 [中薬大辞典, 新訂和漢薬]

医薬品として使用実態があるか Yes (一般薬の配合生薬として承認されている [冠元顆粒、イスクラ等]。また中国薬典にも収載されている)

丹参 1 日量 5~20g を煎じて服用する。また粉末にして単味で服用するほか、処方 (中薬) 中にも多く用いられる。

毒性データ (LD50 等) aqueous extract: TDLo 350 g/kg (rat oral)

アルカロイド、毒性タンパク、毒薬劇薬指定成分等を含むか Yes

2-hydroxy-3-(3,4-dihydroxyphenyl)propanamide, salviamic acid [cyclic phenyllactamide: Choi, J. S. *et al.*, *Fitoterapia*, 72, 30-34 (2001)]

麻薬、向精神薬及び覚醒剤様作用があるもの (類似化合物も含む) 及びその原料植物であるか No

### 主要な二次代謝産物等

isotansinone I, IIA, isocryptotansinone [Kakisawa, H. *et al.* *Tetrahedron Lett.*, 301 (1969)], neocryptotansinone, isotansinone IIB [Lee, A-R. *et al.*, *J. Nat. Prod.*, 50, 157 (1987)], cryptoacetalide, epicryptotansinone [Asari, F. *et al.*, *Chem. Lett.*, 1885 (1990)], danshenol A, B [Tezuka, Y. *et al.* *Chem. Pharm. Bull.*, 45, 1306 (1997)], miltionone I, II [Ikeshiro, Y. *et al.*, *Phytochemistry*, 28, 3139 (1989)]

### 主要な生理活性

抗菌作用のほか消腫、活血、強壮、鎮静、鎮痛などの作用があり、月経不調、腹痛、頭痛、経閉、リウマチ、不眠などに用いられる。

Salvianolic acid inhibits pig gastric ATPases, and gastric secretion in rats. It shows anti-ulcer and anticoagulation activities.

### 重要文献

### その他注意すべき点

Botanical Safety Handbook class 1 (Herbs that can be safely consumed when used appropriately) P. 101

指定医薬品または要指示医薬品に相当する成分を含むか (情報がある場合のみ)

### 評価：B

アルカロイド等を含有しており、また中薬処方にも多く配合され、安全性に十分な配慮が必要である。



## 名称 チクジョ

### 他名等

部位等 稈の内層 備考

学名(科名) ①*Bambusa tuldoidea* Munro [局外生規], ②*Phyllostachys nigra* Munro var. *henonis* Stapf ex Rendle [局外生規], ③*Phyllostachys bambusoides* Sieb. et Zucc. [局外生規] (Gramineae) イネ科

生薬名、基原植物和名等 ②ハチク [局外生規、新訂牧野和漢薬草大図鑑 p 594]、③マダケ [局外生規、新訂牧野和漢薬草大図鑑 p 593] 生薬名：竹茹、竹如 [局外生規]

医薬品として使用実態があるか Yes 局外生規

止血、利尿、頭痛などには、葉 1 日 3~5 g を煎用。口内炎、歯茎腫痛には煎汁を外用する。マラリヤには竹皮の黒焼きが良い。解熱、止血、脳疾患、嘔吐には竹の内皮 1 日 3~5g を煎用する。風邪、百日咳、喘息には竹の油を用いると鎮咳に良い。

配合処方：温胆湯、加味温胆湯、清肺湯、竹茹温胆湯（4 処方）

毒性データ（LD50 等） なし

アルカロイド、毒性タンパク、毒薬劇薬指定成分等を含むか No

麻薬、向精神薬及び覚醒剤様作用があるもの（類似化合物も含む）及びその原料植物であるか No

主要な二次代謝産物等

friedelin [Xiabao, Y. *et al.*, *Yaowu Fenxi Zashi*, 24, 387 (2004)]

主要な生理活性

解熱作用、利尿作用および高血糖作用があり、また多糖体画分に制癌作用が認められる。

重要文献

その他注意すべき点

Botanical Safety Handbook 無記載.

The Complete German Commission E Monographs 無記載

指定医薬品または要指示医薬品に相当する成分を含むか（情報がある場合のみ）

評価：B

局外生規収載生薬で漢方処方にも配合されている。

## 名称 チクセツニンジン

他名等 トチバニンジン

部位等 根茎 備考

学名(科名) *Panax japonicus* C. A. Meyer (Araliaceae) ウコギ科 [局方]

生薬名、基原植物和名等 トチバニンジン [局方] 生薬名：竹節人參 [局方]

医薬品として使用実態があるか Yes 局方

チクセツニンジン 1 日量 3~6g に 500ml の水を加え、半量になるまで煎じつめて食間に 3 回に分けて服用する。苦味が強いので甘草を少量加え煎じるとよい。また人參の代用として処方に配剤されたこともある [知っておきたい生薬 100 (東京化学同人) : p92]。

配合処方：薬局業務指針で、小柴胡湯の変方として人參に代わりに配合。

毒性データ (LD50 等)

chikusetsusaponin V: LD50 656mg/kg (mouse, ip); LD50 278mg/kg (mouse, iv)

chikusetsusaponin IV: LD50 548mg/kg (mouse ip); LD50 343mg/kg (mouse, iv)

アルカロイド、毒性タンパク、毒薬劇薬指定成分等を含むか No

麻薬、向精神薬及び覚醒剤様作用があるもの(類似化合物も含む)及びその原料植物であるか No

主要な二次代謝産物等

chikusetsusaponin Ia, Ib, III, IV, [Kondo, N. *et al.*, *Yakugaku Zasshi*, 89, 846 (1969)], V, yesanchinoside A-J, majonoside R1, R2 [Morita, M. *et al.* *Chem. Pharm. Bull.*, 31, 3205 (1983), 33, 3852 (1985)]

主要な生理活性

チクセツサポニン類に解熱、鎮咳、去痰、抗炎症、抗ストレス潰瘍作用 (III: 弱い鎮静、鎮痙作用; IV: 去痰作用、腸管の自動運動促進、ストレス潰瘍抑制作用; V: 抗腫瘍作用、血糖効果作用)。薬用人參に比べ、健胃、去痰、解熱作用がまさるとされ、去痰、解熱、健胃薬として、消化不良、胃部の熱感。水分停滞感、食欲不振、気管支炎などに用いられる [知っておきたい生薬 100 (東京化学同人) ]

重要文献

その他注意すべき点

Botanical Safety Handbook 無記載.

The Complete German Commission E Monographs 無記載

指定医薬品または要指示医薬品に相当する成分を含むか (情報がある場合のみ)

評価：B

局方収載生薬で日本産の重要生薬である。

名称 チモ

他名等 ハナスゲ

部位等 根茎 備考

学名(科名) *Anemarrhena asphodeloides* Bunge (Liliaceae) ユリ科 [局方]

生薬名、基原植物和名等 ハナスゲ [局方] 生薬名：知母 [局方]

医薬品として使用実態があるか Yes 局方

1日4-10gに400mLの水を加え、半量まで煎じ3回に分けて服用する。散剤として服用しても良い。  
チモを主剤とした白虎湯は熱性の諸病、腹満、口渴などに用いられる [新訂牧野和漢薬草大図鑑 p 620]。  
210 処方中の配合処方：13 処方(6.2%) 酸棗仁湯、滋陰降火湯、滋陰至宝湯、消風湯、辛夷清肺湯、白虎加桂枝湯、白虎加人参湯、白虎湯

毒性データ (LD50 等) rhizoma water extract, methanol fraction: TDLo 90 mg/kg (mouse oral)

アルカロイド、毒性タンパク、毒薬劇薬指定成分等を含むか No

麻薬、向精神薬及び覚醒剤様作用があるもの(類似化合物も含む)及びその原料植物であるか No

主要な二次代謝産物等

timosaponin A-I, A-II, A-III, A-IV, B-I, B-II, mangiferin [Kawasaki, T. *et al.*, *Chem. Pharm. Bull.*, 11, 1221 (1963)]

主要な生理活性

水性エキスには血糖降下作用を示し、糖尿マウスのケトン体量も減少させる。ウサギやガマなどの大腸菌による発熱を解熱、また血糖降下作用もある。漢方処方に配合され、鎮静、解熱、利尿、消炎、止瀉などに有効 [新訂牧野和漢薬草大図鑑]。

重要文献

その他注意すべき点

Botanical Safety Handbook class 1 (Herbs that can be safely consumed when used appropriately) P. 9

The Complete German Commission E Monographs 無記載

指定医薬品または要指示医薬品に相当する成分を含むか (情報がある場合のみ)

評価：B

局方収載で210 処方中13 処方に配合される重要生薬である。

## 名称 チユ

他名等 フレモコウ

部位等 根・根茎 備考

学名(科名) *Sanguisorba officinalis* L. (Rosaceae) バラ科 [新訂和漢薬 p 386, 中薬大辞典 p 1767]

生薬名、基原植物和名等 フレモコウ [新訂牧野和漢薬草大図鑑 p 189, 新訂和漢薬, 中薬大辞典]、ウマズイカ、ダンゴバナ [新訂牧野和漢薬草大図鑑] 生薬名：地榆 [新訂和漢薬]

医薬品として使用実態があるか Yes (一般薬の配合生薬として承認されている [精華槐角丸、イスクラ等])

止血に地榆 1 日量 5~10g に 300ml の水を入れ、半量近くになるまで煎じつめたものを 3 回に分けて服用する。この煎液は下痢止めの効果があるほか、やけど、湿疹、皮膚炎などの洗浄剤として用いてもよい [新訂牧野和漢薬草大図鑑]。同属植物 *S. minor* Scop. (burnet, garden burnet, salad burnet, オランダワレモコウ) は食用されている。

毒性データ (LD50 等) Garden burnet: TDLo 2,744 g/kg (mouse oral)

アルカロイド、毒性タンパク、毒薬劇薬指定成分等を含むか No

麻薬、向精神薬及び覚醒剤様作用があるもの(類似化合物も含む)及びその原料植物であるか No

主要な二次代謝産物等

sanguiin H1-6, sanguisorbin B, E [tannins: Nonaka, G. *et al.*, *J. C. S. Perkin*, 1, 1067 (1982)], pomolic acid 3-O-β-D-glucoside, pomolic acid 3-O-α-L-arabinoside rosamultin [triterpene saponins: Mimaki, Y. *et al.*, *Phytochemistry*, 57, 773 (2001)].

主要な生理活性

エタノールエキスは試験管内で大腸菌、変形菌、枯草菌、ブドウ球菌、チフス菌、パラチフス菌、緑膿菌などのグラム陰性菌に対して抑制作用、脳膜炎に対して抗菌作用がある。また臨床的にはやけどに対して著効がある [新訂牧野和漢薬草大図鑑]。

重要文献

その他注意すべき点

Botanical Safety Handbook 無記載

The Complete German Commission E Monographs 無記載

指定医薬品または要指示医薬品に相当する成分を含むか (情報がある場合のみ)

評価：E

医薬品としての使用実績が乏しく、含有成分等からも食薬区分の見直し対象と成り得ると考えられる。